

企業経営においては、良い時もあれば悪い時もありません。その結果が黒字になるか赤字になるかは様々な要因があるでしょうが、厳しい状況にあっても黒字にしていける経営者には共通点があるといわれます。そのひとつが「決断を先送りしない」ということです。

決断を下すには、その根拠となるものがあります。「だからこう決めた」という拠り所です。自社の目指すもの（経営理念）などはその最たるものでしょう。

しかし、すべて明確な根拠をもって決断できるかというと、そうではありません。むしろ、事の大小にかかわらず経営者が迫られる決断は、当人の直感や閃きのようなものによる部分が多いのではないのでしょうか。「決断は確かさも大切だが、速さこそが重要である」とされます。経営者は、常に直観力を正しく働かせることが求められると言えるでしょう。

倫理法人会の核となる学びの場は、経営者モーニングセミナーという毎週一回早朝に開催される勉強会です。様々な業種・業態の人たちが集まり、交流することは、経営者にとって良い刺激になります。昨今は「朝活」という言葉がもてはやされているように、早朝に開催することで、朝方のライフスタイルを身につける良いきっかけともなるのが、経営者モーニングセミナーなのです。

そして何より、純粹倫理という生活法則を学び、実践する場が同セミナーです。メインテキストである『万人幸福の栞』には、生活法則を十七力条にまとめたものがあります。その第一条に「今日は最良の一日、今は無二の好機」という項目があります。日常の中で



経営者MSに参加し 直観力を磨こう

絵・わたなべじゅんじ

の気づきをつやむやにせず、気軽に喜んでサツと処理する「即行」の実践がポイントです。そもそも日常における閃きや気づきとは、どのようなものなのでしょうか。『万人幸福の栞』には以下のような一節があります。

気づいた時 それはその事を処理する最好のチャンスである。それをのばせば、次第に条件がわるくなる。事情の最も高潮に達した時、その波動が、人の脳に伝わって気がつくようになっていく。これは、「気づくとすぐする」という、ほんの日常の、しかし絶対な生活倫理の実践によって証明せられる。

企業経営の中で大きな決断が的確にできるかどうかは、日常の小さな決断をおろそかにせず、キチンとしているかどうかにかかっています。グズグズと迷い、判断を先送りしているようでは、いざという時に直観力が働きます。

即行の実践の具体的なものは、目が覚めたらサツと起きる「朝起きの実践」です。経営の神様といわれた松下幸之助氏も、「朝寝坊と親不孝に成功者はいない」と断言しています。朝寝坊のすばら生活から脱却するだけでなく、目覚めという気づきを捉え、サツと起きることで直観の冴えに磨きをかけるのです。

とはいえ、これまでの生活パターンを変えるのは、なかなか大変なことでしょう。だからこそ、経営者モーニングセミナーという場を活用するのです。たゆまず続けていく時、必ず良き変化が起こります。

多くの仲間と共に、厳しい時代を乗り越えていくための直観力を、これから磨いていくことはありませんか。